Back Number

本論文は

世界経済評論 2022 年 3/4 月号

(2022 年 3 月発行)

掲載の記事です

世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料
1,320円×6冊=7,920円▶6,600円 税込
17% 送料無料 OFF

富士山マガジンサービス限定特典
※通巻682号以降
定期購読期間中 デジタル版バックナンバー 読み放題!!

世界経済評論　定期購読

[24時間・年中無休]
0120-223-223

お支払い方法
Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp
雑誌のオンライン書店

産業革命史
：イノベーションに見る国際秩序の変遷

エコノミスト　東方 裕久

［著者］郭　四志（かく　しし）
帝京大学経済学部教授
［発行］筑摩書房，2021 年 10 月刊
［判型］新書版，400 ページ
［定価］本体 1,150 円＋税

本書は，「昨今の国際政治経済情勢の目まぐるしい変化や国際政治経済秩序の変遷の本質，大国のヘゲモニー争いの今後の方向性をよりよく認識・把握するための一助」（本書「あとがきより引用」）となる期待で書かれたが，足元の米中摩擦と対立の長期化，第 4 次産業革命の広がり及び地球温暖化対策（脱炭素＝カーボンニュートラル）への米中日欧印などの主要国の対応姿勢などを観察・分析する際にも良い参考になると思って筆者はこの書評を執筆させていただいた次第である。

著者は，「イノベーションこそが，世界秩序の形成と変遷の原動力である」という強い問題意識のもとに，産業における技術革新が起きる現象を広く産業革命と捉えて，第 1 次産業革命（1760～1830 年，軽工業），第 2 次産業革命（19 世紀後半～20 世紀初頭，重工業），第 3 次産業革命（20 世紀後半，IT・情報），第 4 次産業革命（2010 年代以降，IoT･AI）の 4 段階に分けて叙述と論考を展開し，世界政治経済の変遷過程とパワーシフトの内実を究明する試みをしている。その中で国際経済貿易システムの移り変わりや主要国の社会経済発展及び国際分業体制の変化との関係などにわたって多様な論点と史実を交えながら整理し，持続的で壮大な世界経済の運動として産業革命の世界史を大局的に描き出そうとしており，その歴史と現実双方への高い探求心と研究意欲が強く伝わってくる。

ちくま新書の 1 冊として刊行されている本書は，そのボリューム（400 ページ近く）と渉猟範囲（時空両方）などからすれば一般のハードカバーの研究書にも匹敵する構成と内容になっている。本書の目次は以下の通り（各節と小見出し省略）。

第 1 章 イノベーションと産業革命，第 2 章 第一次産業革命―イギリス発の工業化（1760 年代～1830 年代），第 3 章 第二次産業革命―アメリカへのパワーシフト（1860 年代～20 世紀前半），第 4 章 第三次産業革命―ヘゲモニー国の変遷（20 世紀後半～20 世紀末），第 5 章 第四次産業革命―グローバル化と競争の激化（2010 年代～），終章 国際政治経済秩序のゆくえ―産業革命史の視点から。

著者は，世界経済の発展推移を，イノベーションの継起による四段階に区分したうえたどり直し，多くの新しい視点と主張を提起しており，現在の AI，IoT による第 4 次産業革命に至るまでの主要国（英，独，米，露，日，中）の経済発展とイノベーションの特徴を浮き彫りにしたうえ，今後の世界政治経済の多極化とパワーシフトの行方を展望している。

なお，本書では特に中国の産業発展と技術革新を，時の国際関係，特にアメリカとの関わりにおいて多く言及している。また中国における第 1 次産業革命は改革開放後の 20 数年で達成し，2010 年代に第 2 次産業革命の離陸段階に入ったとした上，現在は第 3 次産業革命の前期及び第 4 次産業革命の発足段階にあると主張し，ドイツや日本などの企業主体のモノづくり中心に比べ中国は政府主導やサービス・流通など非製造業に集中しているなどの特徴を指摘しているなど興味深い論点も多い。

本書は著者の積年の研究の一大成果として世に問うているが，昨今の新書刊行の状況と市井の産業革命への関心度を見ても大変注目に値する力作として一読を薦めたい 1 冊である。

（とうほう　ひろひさ）